

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	270700248		
法人名	社会福祉法人 楽晴会		
事業所名	松園グループホーム・スカイ		
所在地 (電話番号)	〒033-0037 青森県三沢市松園町2丁目7番7 (電話) 0176-57-5753		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 8月 28日	評価確定日	平成 20年 10月 29日

【情報提供票より】(平成20年8月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 ~ 25,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	220 円	昼食 420 円
	夕食	380 円	おやつ 円
または1日当たり 1,020 円			

(4) 利用者の概要(8月7日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	77 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みさわクリニック、黒田第二歯科、三沢聖心会
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>グループホームは、市中心街、公共機関に程近い住宅地の中に建てられている。施設中庭には木々や花を植えたり、遊歩道にて散歩ができるよう工夫されていて、癒しの空間となっている。併設施設や法人内他事業所との支援体制も確立されており、研修等の内容も充実している。利用者に喜ばれるよう日々のケアに積極的に取り組んでいる。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>項目によっては取り組み途中のものもあるが、改善に向けて実行中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価することで、管理者・職員が一体となって日々のケアを見直すきっかけとなり、今後更なるサービスの質の向上に繋がることを期待したい。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的な開催に至っておらず、現在調整中である。地域と連携していくためにも、今後定期的な開催を期待したい。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>利用者家族の面会多く、その都度家族とのコミュニケーションを図り、意見や苦情、不安な事を常に話し合っている。更に、月1回オンブズマンの来所もあり、利用者は顔馴染みとなっている為、スムーズに意見交換ができています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>各行事には、地域住民がボランティアをしてくれたり、定期的に共同で防災訓練をする等、連携が図られている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念の他に、グループホーム独自の理念を職員で話し合い決定、掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼で理念を唱和する等し、日々のケアに活かされている。家族に対しても面会時に説明している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	併設事業所もある為、デイサービスの利用者や近隣住民が遊びに寄ってくれている。また、地域イベントや同法人事業所の行事にも参加もしたり、事業所の行事に地域の方を招いて共同で開催したりする等、地域交流の機会を多くもっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者や職員が、日頃のケアを見直すきっかけの材料となっている。改善点等は、皆で話し合い質の高いケアに向けて取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年も年1回しか開催できておらず、運営推進員の選出に苦慮している状況である。</p>		<p>地域住民と一体となる為にも、地域に根付いた方を運営推進員とし、定期的開催できる体制を早急に確立する事に期待したい。</p>
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>同法人の在宅介護支援センターを通じての情報交換、市町村会議への参加もされている。それ以外で担当者や話す機会が少なく、今後は機会を増やしたいと取り組んでいる。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在制度を利用している利用者がある為、研修会を通して全職員が制度を理解し、必要な利用者への支援ができるよう取り組んでいる。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部の虐待に関する研修にも参加し、参加した職員からの伝達研修を行っている。日々のケアで虐待を見過ごされないよう、また指示的な言葉は使用しないよう互いに注意し、防止に心がけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に契約するが、その際は料金に関することを含め、施設内での生活状況等をきちんと説明し同意を得ている。後に身体状況の変化により何らかの料金が必要となれば、その都度説明し、契約締結時にも再度説明している。		
10	12	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話等で健康状態や日常の状態を細かに報告しており、家族ともコミュニケーションが図られている。面会も多く、面会時に連絡する方が多い。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に苦情や要望用の目安箱を設置しているが、今まで目安箱を利用した方はない。苦情等は直接職員に伝えられており、その内容は職員で話し合い、結果は誰もがみれるようファイルしている。その他、月1回オンブズマン2名が来所して利用者の訴えや要望を聞くことで日々のケアに活かしている。		
12	16	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、4月に定期的に行っている。利用者や家族から異動に伴い不安の声も聞かれる為、最小限に止め利用者に影響のないよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員は自己目標を立て、個々で研修希望を出す等外部研修の参加も率先している。研修後は他の職員向けに伝達研修を行っている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>以前は同法人内グループホームとの職員交換研修を行っていたが、今年はまだできていない。グループホーム間での会議を定期的にもち、その後研修を行っている。また、同法人特別養護老人ホームでの実習も行っている。ケアマネは、市内ケアマネジメント研修会に参加することで交流を図っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所前に家族やケアマネから情報を得ることで、安心して暮らせるよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩である利用者から教わることは多く、また利用者から庭園の植物の手入れの仕方なども教わっている。更に職員が落ち込んでいた時にも利用者から声をかけてもらい励まされることもあり、互いに支え合う良好な関係を築いている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>それまでの生活の延長線上に今後の生活を考え、必要に応じて対応策を検討している。趣味や楽しみを継続していただけるようにサポートしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプラン作成会議の時間をもち、本人や家族の意向を踏まえて皆で話し合い作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的な見直しの他に必要に応じて介護計画の見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人、家族の状況に応じて受診時の送迎等必要な援助を行ったり、入浴に関しては利用者の体調を考慮し、併設事業所の入浴施設(リフト)を借りたりする事で利用者の負担軽減を図る等、柔軟に対応している。また、身体状況に応じて併設の特養への申し込み、その後の入所判定会議に管理者も出席するなど、利用者が安心して入所できるよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者それぞれの主治医と連携し、必要に応じて受診を行っている。また、定期受診にはグループホーム管理者や家族が同伴することで医療面の情報もきちんと収集できる体制を確立している。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>現状は、看護師の常勤体制がない為、医療依存が高くなった場合は退所となっている。しかし、家族とは常に話し合いをもち、それぞれの主治医と連携をもつことで、できる限りグループホームで生活できるよう情報を共有しながらケアを提供している。</p>		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報の管理に関しては、情報を事務所から持ち出す事なく、事務所不在時は誰も入らないよう戸を閉めている。利用者への声かけにも気をつけている。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日によって、それぞれの体調変化もあることなので、あまり日課は決めず希望に沿ってその方のペースに合わせて支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事に関しては委託である為、委託先の栄養士と管理者が定期的に意見交換することで利用者に向けた食事提供ができています。主食と味噌汁、おやつ等は職員と利用者が一緒に準備している。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>14時以降、毎日入浴できる準備をしている為、希望に沿った対応ができています。毎日入浴することも可能ですが、特に希望がなければ週3回位の入浴となっていて、入浴拒否のある方は、足浴から始め、入浴できるように取り組んでいます。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>個々の趣味や特技を發揮できるようサポートしたり、日常生活の家事も役割分担することで楽しみになっています。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>定期的な外出行事計画はないが、月1回位はドライブや外食、ショッピング等その都度利用者からの希望を聞きながら何らかの形で外出する機会を作っている。その他、個別にショッピング対応をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束が必要な利用者はいないが、毎年研修に参加し内部でも伝達研修を行うことで、職員は身体拘束による弊害を正しく理解しており、日々のケアに活かしている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関に鍵をかけるが、日中は併設事業所との行き来も自由にでき、鍵をかけていない。安全面に配慮しながら中庭にも自由に行き来や散歩ができる。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、防災訓練を行っている。消防と地域住民参加型の訓練は年2回で、避難誘導訓練や消火訓練は実際に自宅からかけつけてもらい、地域住民の協力の下で実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事等の摂取量を把握し、必要に応じて補食の提供を行い、栄養士と相談することで個別対応ができています。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	来園者にも、うがい、手洗いを徹底している。その他、感染症対策委員会がマニュアルを作成し、各部署へ配布することで内部研修に役立てている。予防接種も定期的実施している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共同空間はとても明るく、利用者の作品がきれいに飾られている。居間と食堂もそれぞれ自由に寛げるようになっている。食堂から中庭へは自由に出入りできる為、安全に散歩ができる。中庭の草木を鑑賞することで、四季の変化を感じ取ることができ、居心地の良い空間になっている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室も適度に光が入り、明るく清潔である。必要に応じて馴染みの家具や小物を持ち込み、好きな物を壁に飾る等して、居心地の良さに配慮されている。</p>		

 は、重点項目。